

【第6回アフリカ開発会議サイドイベント】

2050年に向けたアフリカの経済政策の課題

国際協力機構（JICA）は、8月26日、ケニア、ナイロビのヒルトンホテルにて、センテニアル・グループ・インターナショナル（CGI：米国シンクタンク）と共催で、「2050年に向けたアフリカの経済政策の課題」をテーマにセミナーを開催しました。

アフリカからはコートジボワールのカバ経済計画大臣、モンガ・アフリカ開発銀行チーフエコノミスト、センテニアル・グループ（CGI）からはコーリ社長兼最高経営責任者（CEO）、アーラース・CGI シニアアソシエイト、JICAからは加藤宏理事が登壇しました。

セミナーでは、アーラース・CGI シニアアソシエイトが、JICA とセンテニアル・グループ・インターナショナルが合同制作した6つのポリシーペーパー、「Africa 2050 update」「The impact of commodity terms of trade in Africa: Curse, blessing, or manageable reality」「Africa's inclusive growth challenge: Reducing deprivation and creating jobs」「Infrastructure in Africa」「Economic diversification of African economies」「Regional economic integration in Africa」の概要を発表しました。アーラース氏は、経済成長には、政治的なコミットメントが必要であることを強調しました。

続いてコーリ氏をモデレーターとして、①2013年以降、アフリカにとっての経済的条件はどのように変化したのか、②世界の他の地域との経済的集約（キャッチアップ）に向けて、アフリカはどのように対応すべきか、③開発パートナーはどのようにアフリカのパートナーを支援すべきか、との3つの主要な論点についてのパネルディスカッションに移りました。

コートジボワールのカバ経済計画大臣、モンガ・アフリカ開発銀行チーフエコノミストは、アフリカ各国の経験に基づき、資源開発や農産物に依存した経済構造からの転換・多様化の必要性、電力などのインフラ開発、雇用創出、人材開発の必要性を指摘するとともに、人口構造転換と人口ボーナスの可能性についても言及しました。

加藤 JICA 理事は、これらのポリシーペーパーが、2013年の第5回アフリカ開発会議(TICAD V)の際に JICA と CGI が発表した「Africa 2050」（注）を踏まえて執筆された経緯を説明し、開発政策の立案、制度改革の検討に加えて、国民一人一人の取り組み姿勢が重要であることを指摘し、議論を締めくくりました。

（注）「Africa 2050」は、2014年に Oxford University Press より商業出版されています。

■本イベントの登壇者

(基調講演)

- アーラース・セオドル センテニアル・グループ・インターナショナル シニアアソシエイト
(パネリスト)

- ニアレ・カバ コートジボワール共和国経済計画大臣

- セレスティン・モンガ アフリカ開発銀行副総裁兼チーフエコノミスト

- 加藤宏 JICA 理事

(モデレーター)

- コーリ・ハリンダー センテニアル・グループ・インターナショナル社長兼最高経営責任者

